

調査速報

# 外食需要動向(2022年5月)

## 3年ぶりに何の規制もない大型連休となり、外食機会が増加

主任研究員

佐橋 官

045-225-2375

sahashi@yokohama-ri.co.jp

要約

- 2022年5月の1世帯あたり実質外食支出金額は全国が前月比5.6%増(前年同月比35.6%増)、関東地方が前月比10.3%増(前年同月比30.7%増)となった。
- 5月の外食産業売上高は、前年同月比20.4%増となり、増収率は前月(4月、同13.5%増)から拡大(良化)した。3年ぶりに何の規制もない大型連休となったことで、外食機会が増加したと考えられる。
- 5月は全ての業態で売上高が前年同月の水準を上回っており、人流増加の影響が全ての業態に及んだ。

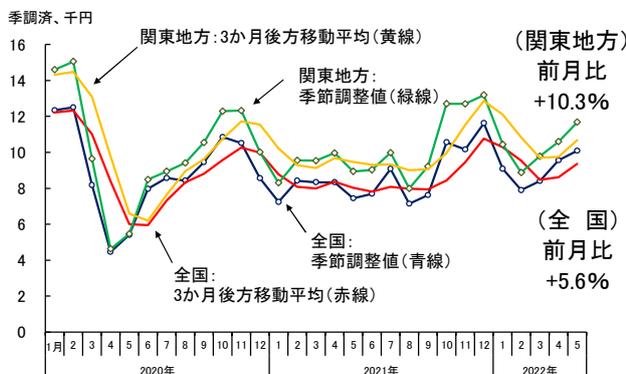
### 1. 2022年5月の家計の実質外食支出金額は3か月連続で前月比プラス

総務省「家計調査」に基づく2022年5月の1世帯あたり実質外食支出(用途別分類、2人以上の世帯、学校給食を除く、実質化および季節調整は浜銀総合研究所が実施)は、全国が前月比5.6%増(前年同月比35.6%増)、関東地方が前月比10.3%増(前年同月比30.7%増)となった(図表1)。全国、関東地方とも、3か月連続で前月の水準を上回り、持ち直しの動きが続いた。5月は3年ぶりに規制のない大型連休となったことから、コロナ禍下で抑制されていた反動もあって外出する人が多くなり、外食機会も増えたとみられる。

### 2. 2022年5月の外食産業売上高は前年同月比で増収率が拡大(良化)

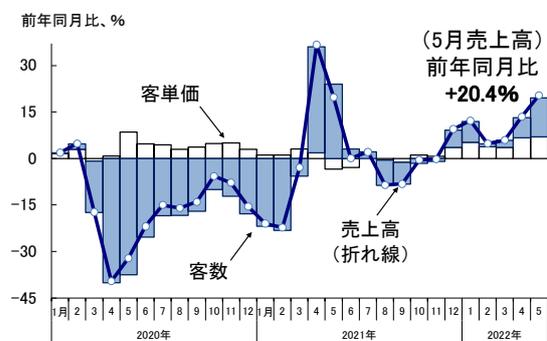
一般社団法人日本フードサービス協会が発表した「外食産業市場動向調査」によると、2022年5月の外食産業売上高(名目値)は前年同月比20.4%増となり、4月の増収率(同13.5%増)に比べて拡大(良化)した(図表2)。客単価(同7.0%増)は4月並みの伸びを維持した一方、客数の増加率(同12.5%増)は4月(同6.5%増)に比べて拡大(良化)した。観光地や繁華街、商業施設等における人流増加が客数の増加要因となり、売上高を一段と押し上げた。

図表1 実質外食支出金額の増加が続く  
(全国、2人以上の世帯、季調済)



注1: 総務省「家計調査」の用途分類「一般外食」。  
注2: 実質化と季節調整は浜銀総合研究所が実施。  
出所: 総務省「家計調査」より浜銀総研作成

図表2 外食産業売上高は増収率が拡大(良化)  
(全国、全店、前年同月比)



注1: 全店とは、既存店と新規店の合計。  
注2: 売上高と客単価は名目ベースの税抜き価格による比較。  
注3: 売上高、客数、客単価は店内飲食だけでなく店外飲食も含む値。  
出所: 一般社団法人日本フードサービス協会「外食産業市場動向調査」より浜銀総研作成

### 3. 全ての業態で売上高が前年同月の水準を上回る

業態別の売上高をみると、2022年5月は調査対象の全業態で前年同月の水準を上回った（図表3）。前年（2021年）5月は営業時間短縮や酒類提供禁止等の規制があったため、パブ・居酒屋業態やディナーレストラン業態等では売上高の水準が非常に低くなっており、このことが今年5月の増加率に影響したという面はある。しかしながら、コロナ禍前との比較である「2019年比」でみても、前記2業態を含むほとんどの業態で増収率が改善しており、今年5月は人流増加の恩恵が外食業界全体に及んだといえよう。

ちなみに、2022年5月は洋風ファストフード業態だけでなく、中華ファミリーレストラン業態と焼き肉ファミリーレストラン業態でも、売上高がコロナ禍前（2019年5月）の水準を上回った。

なお、人流の増加とともに店内飲食の利用割合が増加したことで、販売形態別の売上高の動向にも変化がみられる。具体的には、持ち帰り米飯業態においてはテイクアウト需要に一服感が出て来ている。また、洋風ファミリーレストラン業態においても、デリバリーとテイクアウトの売上高の増勢が鈍化した企業がみられる。

他方、コロナ禍前からデリバリーやテイクアウトの拡大に取り組んできた洋風ファストフード業態や中華ファミリーレストラン業態等では、店内飲食が可能になってからもデリバリーやテイクアウトが減速する様子が見られない。これらの業態ではデリバリー等の販売形態が顧客に定着していると考えられる。

図表3 外食産業売上高(2022年5月、全国、全店)

業 態	店舗数	売上高		客数		客単価	
		前年比	2019年比	前年比	2019年比	前年比	2019年比
<b>全 体</b>	<b>36,985</b>	<b>20.4%</b>	<b>-4.6%</b>	<b>12.5%</b>	<b>-16.4%</b>	<b>7.0%</b>	<b>4.2%</b>
<b>ファストフード</b>	<b>21,456</b>	<b>5.7%</b>	<b>8.2%</b>	<b>4.8%</b>	<b>-8.5%</b>	<b>0.8%</b>	<b>10.4%</b>
洋 風	6,228	1.8%	26.2%	4.4%	1.9%	-2.5%	13.3%
和 風	5,128	7.9%	0.8%	1.5%	-7.9%	6.2%	10.4%
麵 類	3,299	22.9%	-10.7%	15.8%	-26.6%	6.1%	8.0%
持ち帰り米飯/回転寿司	4,391	2.0%	-1.1%	-0.9%	-15.5%	2.9%	4.7%
その他	2,410	8.9%	-5.6%	10.6%	-25.1%	-1.5%	10.7%
<b>ファミリーレストラン</b>	<b>10,379</b>	<b>36.7%</b>	<b>-13.9%</b>	<b>27.7%</b>	<b>-32.1%</b>	<b>7.0%</b>	<b>6.5%</b>
洋 風	4,968	29.1%	-22.1%	24.5%	-36.7%	3.6%	5.2%
和 風	2,543	46.7%	-16.8%	35.8%	-28.1%	8.0%	4.4%
中 華	1,376	27.0%	7.2%	22.7%	-18.9%	3.6%	10.6%
焼き肉	1,492	59.6%	4.1%	46.0%	-35.8%	9.3%	4.0%
<b>パブ・居酒屋</b>	<b>2,048</b>	<b>368.9%</b>	<b>-45.3%</b>	<b>251.6%</b>	<b>-65.3%</b>	<b>33.4%</b>	<b>20.0%</b>
パブ・ビアホール	433	476.6%	-38.9%	340.3%	-52.8%	30.9%	-0.3%
居酒屋	1,615	328.4%	-48.0%	212.0%	-67.0%	37.3%	20.4%
<b>ディナーレストラン</b>	<b>959</b>	<b>100.1%</b>	<b>-10.8%</b>	<b>103.1%</b>	<b>-41.0%</b>	<b>-1.4%</b>	<b>-8.5%</b>
<b>喫茶</b>	<b>1,901</b>	<b>31.4%</b>	<b>-18.3%</b>	<b>21.3%</b>	<b>-19.9%</b>	<b>8.3%</b>	<b>-9.7%</b>
<b>その他</b>	<b>242</b>	<b>49.5%</b>	<b>-29.6%</b>	<b>49.9%</b>	<b>-2.4%</b>	<b>-0.3%</b>	<b>6.3%</b>

注1:全店とは、既存店と新規店の合計。

注2:売上高と客単価は名目ベースの税抜き価格による比較。

注3:売上高、客数、客単価は店内飲食だけでなく店外飲食も含む値。

注4:客数と客単価の2019年比の値は浜銀総研が算出。

出所:一般社団法人日本フードサービス協会「外食産業市場動向調査」より浜銀総研作成

本レポートの目的は情報の提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。